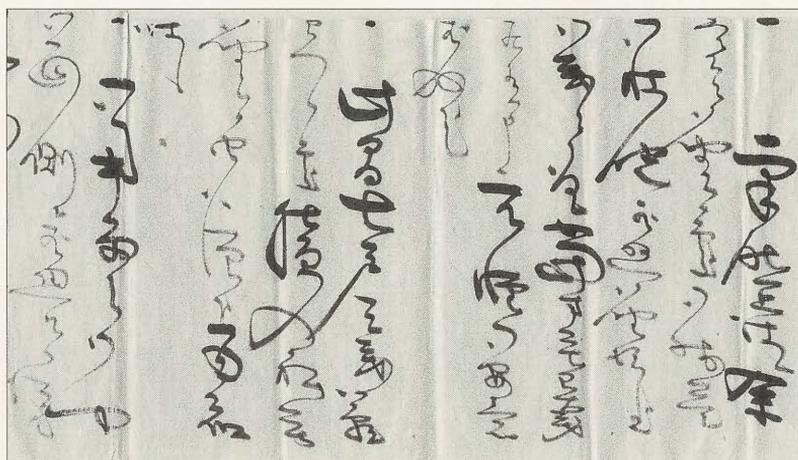


解読 295 — 3 黒砂糖・半紙の注文



一筆啓上仕候 余

寒ニ御座候処御揃益

御壯健可被遊御座珍重

御義奉存候 当方無異義

罷有申候 乍憚御安意

可被成下候

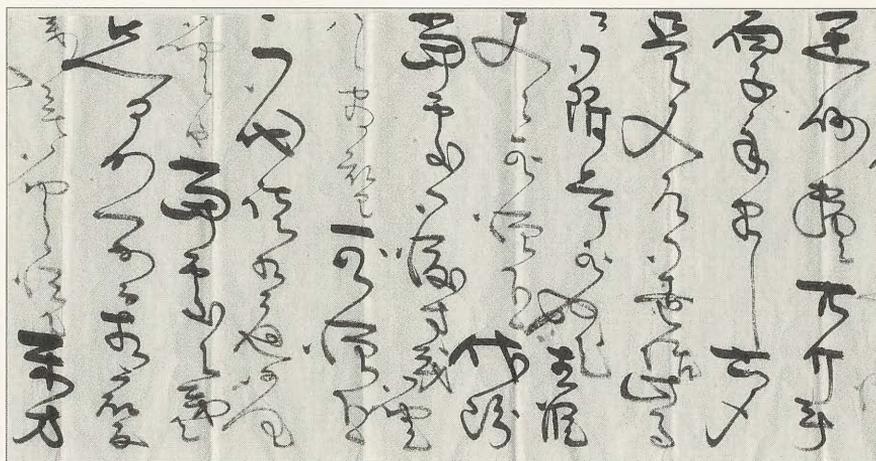
一此間七戸之義御願

申上候処 積入船無

御座候由被仰下承知仕候

一御用多之御中

御面倒ニ可被思召候得共



黒砂糖廿斤計

厚手半し六々

是又乍御世話此馬

二 御附上ケ可被成下候 直段

夫々可被仰下候 代錢

当処御渡方義御座候

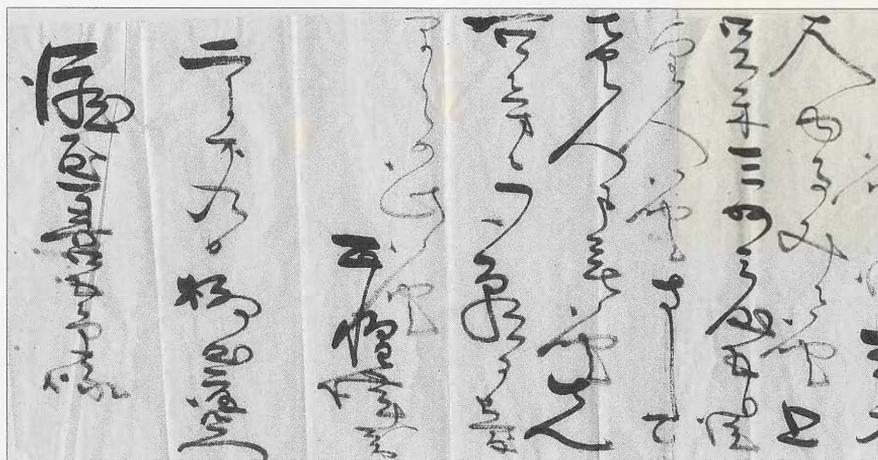
ハ、為替可被仰下候

一 御地諸相庭如何ニ

御座候也 当処之義者

先日右つがる相変

義無御座候得者 米方



大ゆるみニ御座候且

足米三拾三匁五歩位

望人御座候 さして

望人も無御座候 先

右旁 御願申上度

早々 如此御座候

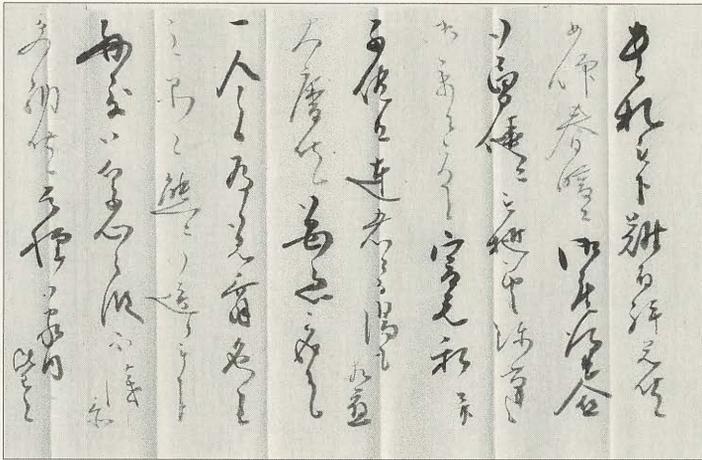
恐惶謹言

二月廿九日

柳屋 藤左衛門

滝屋善五郎様

解読 295 — 7 入湯見舞の礼状



貴札被下難有拝見仕候

如仰春暖ニ御座候得共愈

御勇健ニ被遊御座珍重之

御義ニ奉存候 爰元私并

子供共達者ニ而湯も相応

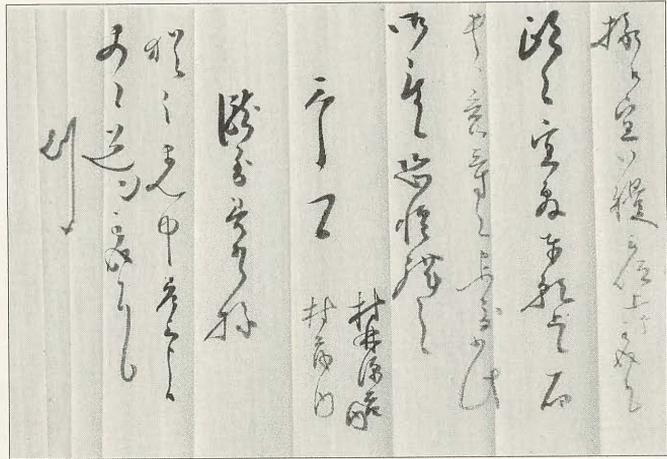
大慶仕候 御安慮可被成下候

一今日為御見舞色々

之品々態々御送り被下

毎度御厚心之段不浅忝

受納仕候 乍憚御家内皆々



様 江 宜御礼被仰上ケ可被成下候

跡々宜敷奉願上候 右

貴意旁々申上度如此

御座候 恐惶謹言

村林源吉内

三月一日

村 茂内

滝屋善五郎様

猶々まん中差上申候

夫々□□□可被成下候

則 日

解読 295 | 14 兵庫煙草の注文



廿九日正 貴札被下忝拜見仕候 如仰

春暖ニ御座候得共 愈御勇健被遊

御座珍重御義奉存候 此方私共無異

罷有候 乍憚御休意可被成下候

一昨年御願申上候兵庫煙草

上刻 徳寿丸江 御頼被成下候由

徳寿丸難船ニ而 鰻ヶ沢江入津之

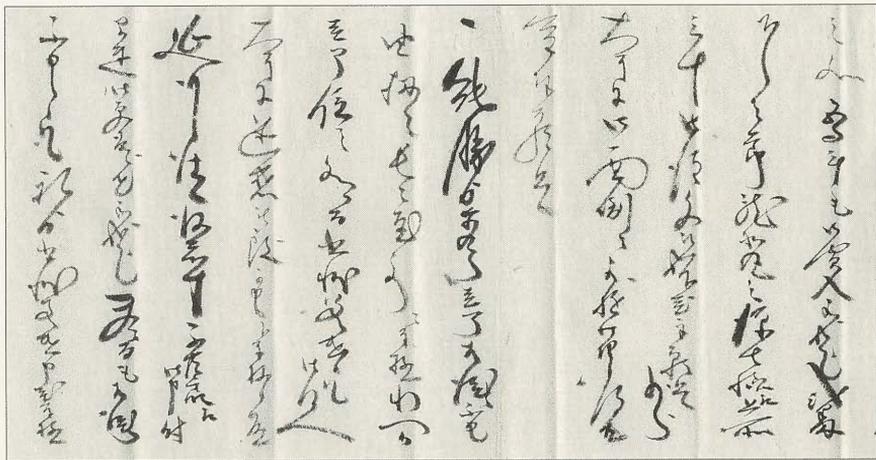
由 左候得者無難ニ而 参候共鰻ヶ沢

ニ而 壳拂可申奉存候 然共高直

之煙草者同所ニ而 時引不申候

得共心当ニ者相成り申間敷奉存候

仍而者御地江参候煙草之内銀高直



之処五ツ計も御買入可被成下候 貳番

下之節 龍和丸之源七様 江上所

三十御注文被成下度奉願上候 少分

大キニ御面倒ニ被遊御座候得共

宣奉願上候

一能勝方尔今 壹両相渡し不申候

由 扱々長々至ものニ奉存候わづか

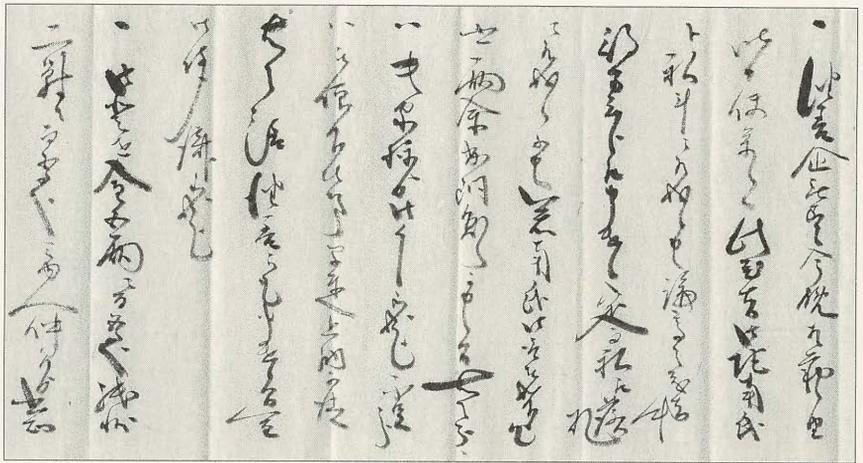
壹兩位之処 ニ而 書状差遣候も御同人

大キニ迷惑被致可申候ト奉存候故

延引仕候 何卒子共衆 江御申付

早速御受取被遊可被成下候 夫 ニ而 も相渡し

不申候ハ、私方書状差遣申度奉存候



一 油善企無望今晚相勤候由

昨日使参ハ、此度者御地南氏

上私計ニ相成り申候 論高之義者口

部萬三郎 江申遣候 定而私 江落札

ニ相成り不申候 若南氏御取被成下候ハ、

六両余出銅懸ケ可申候間 右之分

八貴家様方御かし可被成下候 不足分

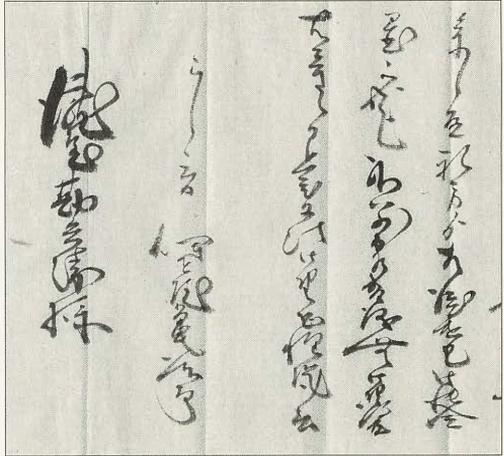
ハ被仰下次第 早速上納可仕候

右之趣油善 江も申遣候間宜

御聞濟可被成下候

一 御登せ金五両ニ而五匁紙状

二 対ニ而五匁之ゆへ仲間方書正



参候故 私方方相渡遣申候 御帳合

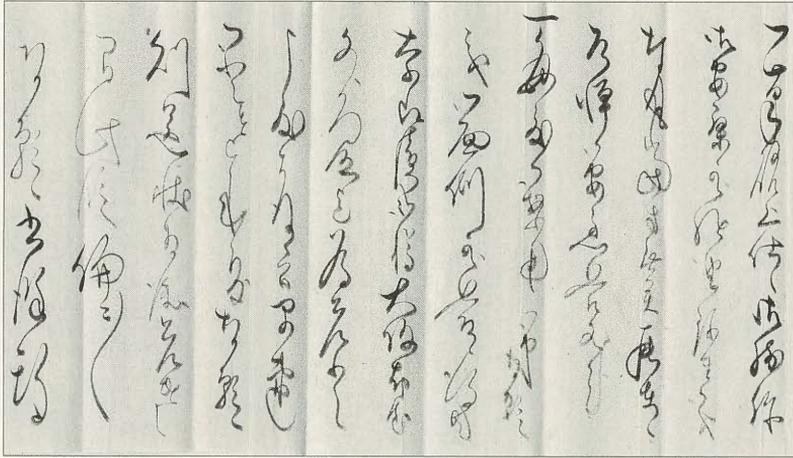
置可被成下候外 別而相替義無御座候得共

右旁御申上度如此御座候 恐惶謹言

三月三日 伊廿屋龜次郎

滝屋勘兵衛様

解読 296 — 12 奈良漬の注文



一筆啓上仕候 御揃弥

御安康可被遊御座珍重御儀

奉存候 当方無異罷在候

乍憚 御安慮思召可被下候

一毎度御繁用御中奉願候

義 御面倒可被思召候得共

奈良漬貳樽大坂布屋

文右衛門殿迄為差登

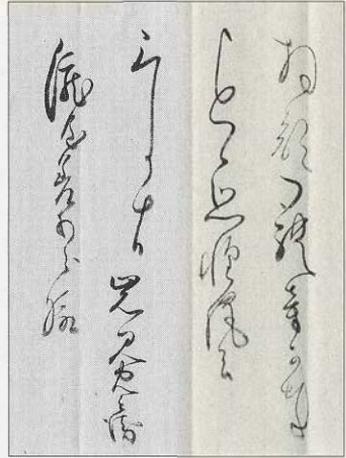
申度奉存候間 早速

御登せ被成下度奉願候

則送状相添差遣申候

間 此段偏ニ

奉願候 書餘期



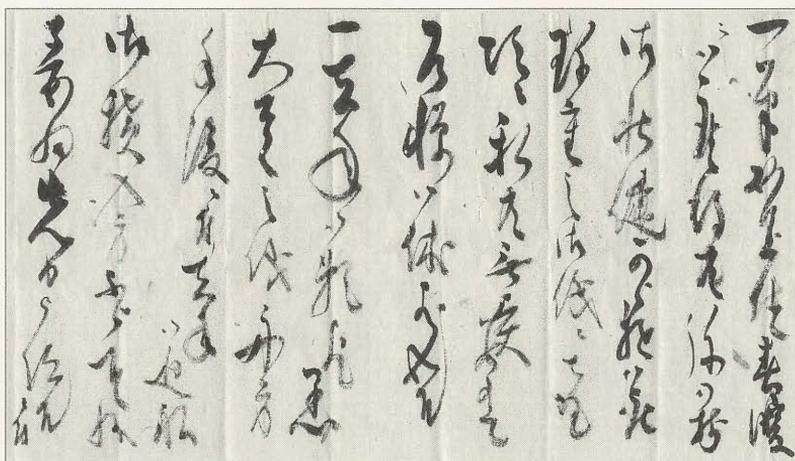
拝顔御礼旁可奉

申上候 恐惶謹言

三月十日 岩見忠兵衛

滝屋善五郎様

解読 296 | 18 登大豆延引の通知



一筆啓上仕候 春暖

二御座候得共弥御揃

御壯健可被遊御座

珍重之御儀 二奉存候

次 二私共無異罷有候

乍憚御休可被成下候

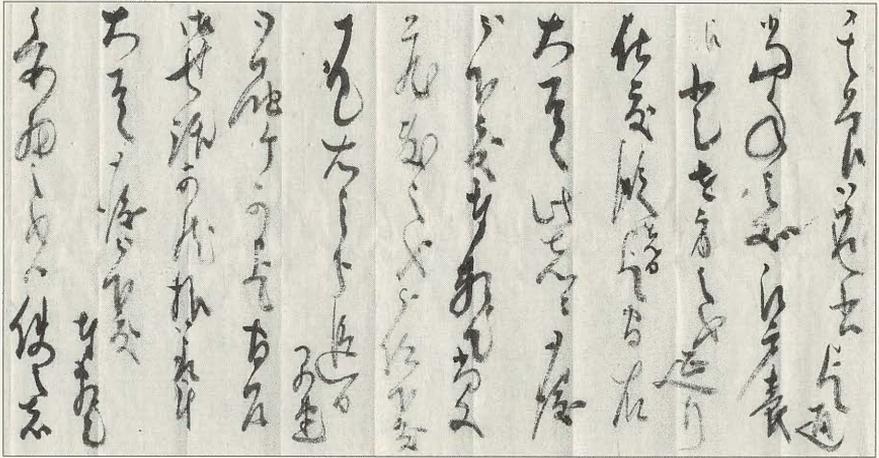
一去年御頼申上候 黒

大豆之儀 舟方

手渡 二付去年御廻船

御積入方不被下候様

委細先日被仰下候 二付



其節 御返書申上候通

当年之処江戸表

江登せ方之義延引

仕度段 先日申上候間 右

大豆 此者ニ御渡

被下度奉頼上候 尚又

藏敷之義被仰下度

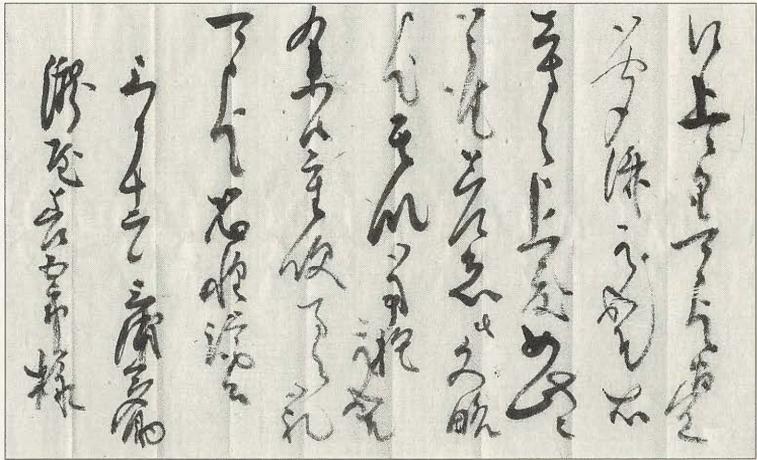
奉存候 右之分追日 早速

御届ケ可申上候間 乍

御世話可然様御取計

大豆御渡被下度奉頼候

委細之義ハ使之者



口上ニ而も可申上候間 宣

御聞濟可被成下候 右

旁々申上度如此ニ

御座候 差急キ文略

申上候 其段御用捨可被成下候

余八重便万々御礼

可申上候 恐惶謹言

三月十二日 三浦多助

滝屋善五郎様

解読 296 — 19

塩値段の

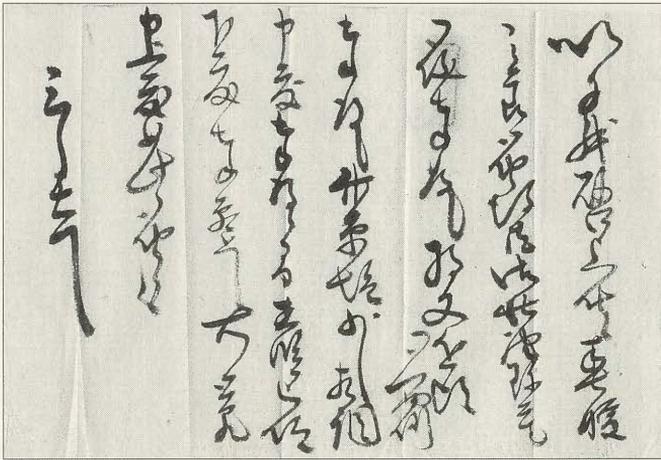
問い合わせ

表書き

滝屋様

米理店

用書



以手紙啓上仕候 春暖

之節御座候得共 御壯健珍重

御儀奉存候 猶又近頃御面倒

奉存候 竹原塩少々相調

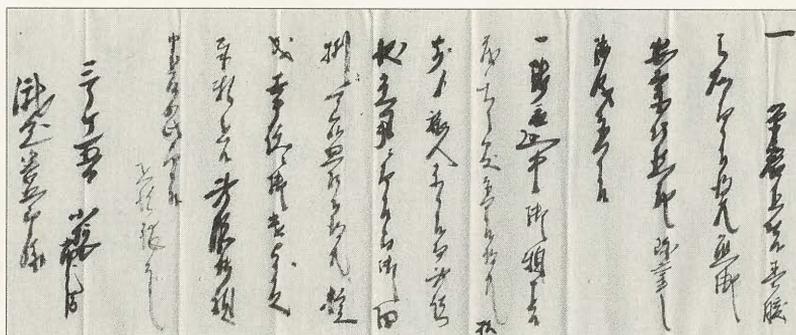
申度奉存候間 直段被仰付

下度奉願上候 右御願

申上度 如此御座候

三月十二日

解説 297 — 5 松前様子の知らせ



一筆啓上仕候 春暖

之候ニ御座候得共 愈御

安泰被遊御座 珍重之

御儀ニ罷有候

一御取込中御頼申上候

茂有之処忝存候得共 松

前方旅人参候而 此諸

地急用ニ御座候而御面

倒可申上様思召候得共 □

義幸便ニ御遣被下度

奉頼上候 此段御報

申上度如此御座候

恐惶 謹言

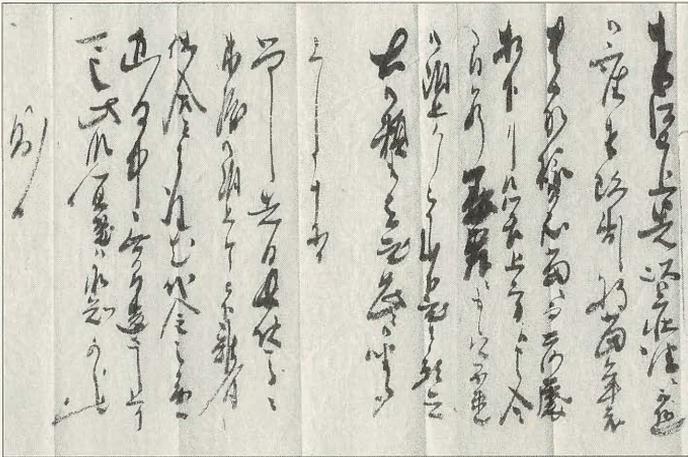
三月十五日 小河屋市郎兵衛

滝屋善五郎様

解説 297 — 8 荷物附上げの連絡

表書き

滝屋善五郎様 鳴海傳藏  
要用



奉御申上候 先以御壯健ニ可被遊

御座奉珍寿候 猶当年茂

貴家様御心当ニ而荷刃

相下り候筈上方江申入候

間 若着岸ニも候ハ、早速

御附上ケ被成下度奉願上候

右御頼被下度 如此御座候

三月十五日

尚々 先日者駄馬ニ

木綿御附上ケ被下難有

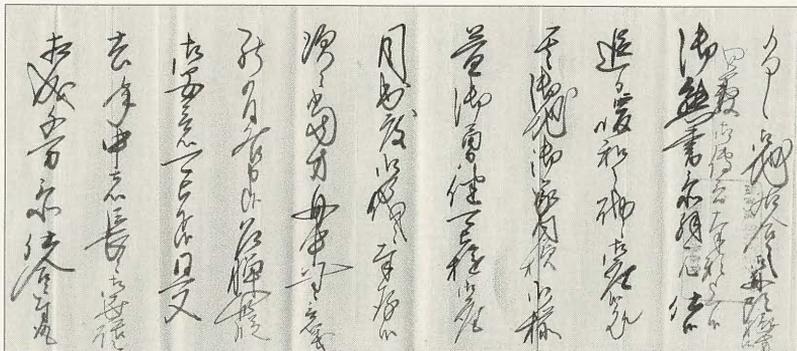
仕合ニ奉存候尤代金之義ハ

近日中無間違さし上ケ

可申候 此段宜敷御承知可被下候 以上

則日

解説 297 — 22 留守中の無沙汰と帰国の知らせ



尚々御地居合之御船頭様方江

宣敷御伝言奉願上候

御懇書忝拝見仕候

追日暖和之砌ニ御座候処

其御地御家内様御揃

益御勇健可被遊御座

目出度御儀ニ奉存候

次ニ当方舟中無意義

罷有居申候 乍憚此段

御安意可被下候 且又

去年中者長々御世話ニ

相成千万忝仕合ニ奉存候

行状今度乗遂  
 下拙老人当地参上之処  
 未舟廻不申候間親方  
 出居申候間 御返事も不申迄  
 失礼仕候 何れ 舟廻候得ハ  
 其御地ニ罷上り申候  
 其節ハ何角御世話  
 奉願申上候 先者右  
 御見舞申上度御報  
 以愚札如此御座候  
 恐惶謹言

猶私共今度乗遂

下拙老人当地参上之処

未舟廻不申候間親方

出居申候間 御返事も不申迄

失礼仕候 何れ 舟廻候得ハ

其御地ニ罷上り申候

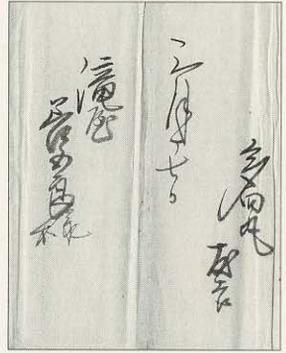
其節ハ何角御世話

奉願申上候 先者右

御見舞申上度御報

以愚札如此御座候

恐惶謹言



多田丸  
友吉

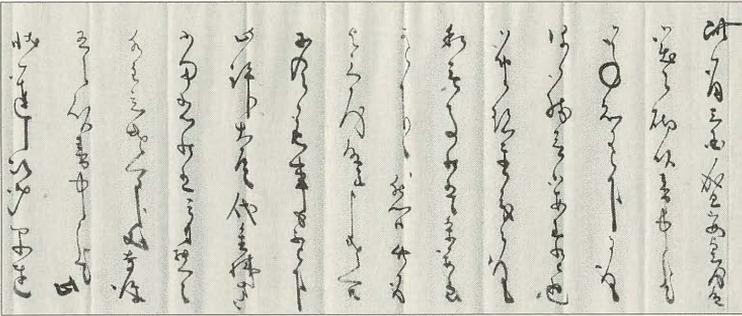
三月十七日

滝屋  
善五郎様

解説 299 — 11 大豆代金の支払

表書き

三月二十八日達  
丸屋伝三郎殿より



此間三国盛安与三右衛門殿

御出之砌以書中申上候

御承知可被下奉存候

弥御揃益御安泰被遊

御座珍重之義ニ奉存候

私無事罷有候条御安意

可被下候然ハ此間

与三右衛門殿迄申遣候へ共

尔今御返事も不被下

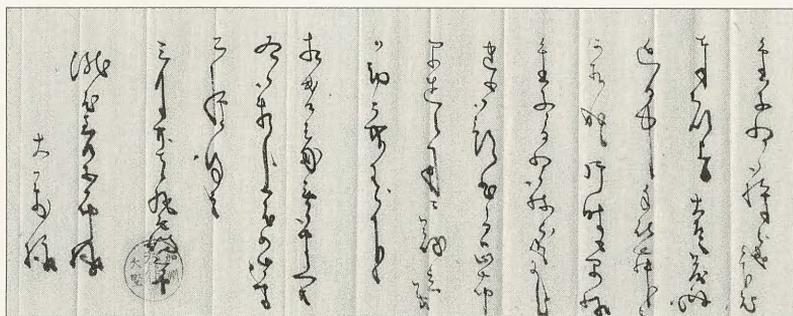
此許大豆代金拂方ニ

当惑罷有候ニ付然者

水主立遣可申候処幸使

有之以書中申上候此

状御達し次第早速



金子為御持被成被下度

奉願上候大豆荷改も

近日中手仕舞と

可相成候片付も早様

金子<sup>二</sup>而為御持被成可被下候

迎も御預書<sup>二</sup>而八此節

早速之用<sup>二</sup>難立義

御勘弁可被下候

相替老奴無御座候へ共

右御頼申上度如此御座候

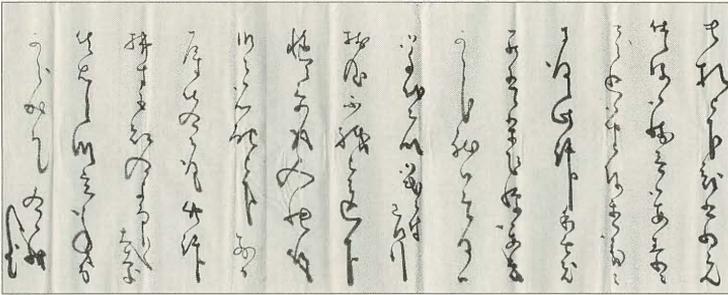
恐惶謹言

三月二十七日 丸屋伝三郎<sup>印</sup>

滝屋善五郎様

大万様

解読 299 — 17 残金受領の通知



表書き

四月三日達  
丸屋伝三郎殿より

貴札被下難有拜見

仕候弥御揃益御安泰ニ

可被遊御座珍重之御儀ニ

奉存候此許私無異

罷有候条乍憚御安意

可被下候然ハ今日ハ

御手代衆御遣ニ付差引

残金不残被送下

慥ニ受取入帳仕候

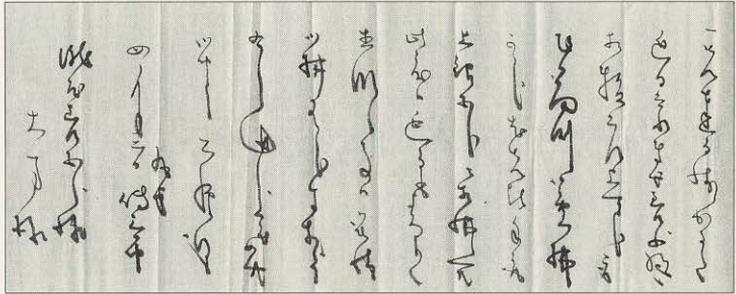
段々御心配被下別而

辱仕合ニ存候此許

拂方も都合よろしく大慶

仕候右之段宜御承知

可被成下候右御状申上候



一先達而揃かるた

近日象牙屋善兵衛殿へ

相頼差上可申候間

乍御面倒御聞御拂

可申候尤先頃手取

上銀五分ニ相拂候共

此度ハ返事もよろしく

直段之事ハ御無情

御拂可被下奉願上候

右之趣申上度如此

御座候 恐惶謹言

四月二日 丸尾伝三郎

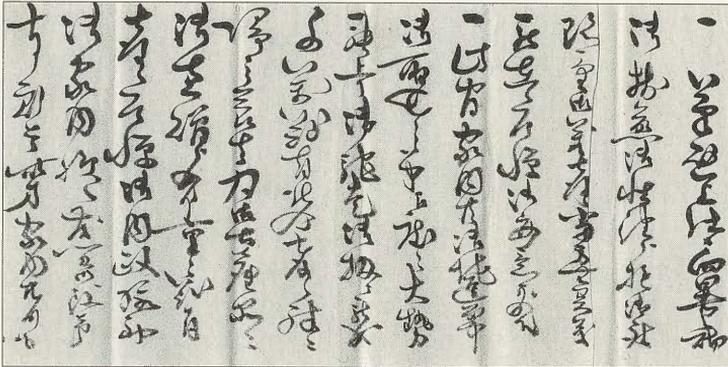
滝屋善五郎様

大万様

解説 300 — 1 青森滞在中のお礼

表書き

四月八日達  
松井藤左衛門殿より



一筆啓上仕候向暑之砌

御揃愈御壯健遊御座

珍重御義奉存候当方無異義

罷在候乍憚御安意可被成下候

一此間家内共御地逗留中

御取込之御中 江度々大勢

罷上り御馳走御扱ニ被成

千万難有仕合ニ奉存候殊ニ

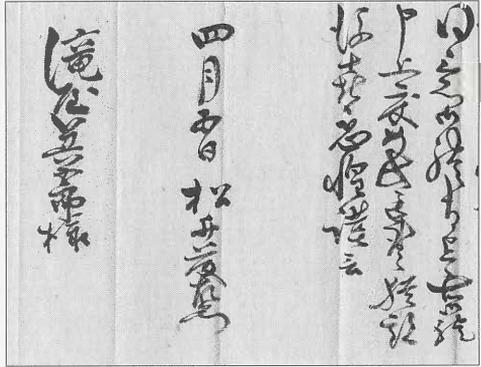
帰之節者为御土産品々

御惠贈被成下重々難有

奉存候乍憚御内政様初

御家内様へ右宜御改声

奉願上候此方家内共よりも



日之御座候申上候右御礼  
申上度此如二御座候猶期  
後喜候 恐惶謹言

四月五日 松井藤左衛門

滝屋善五郎様

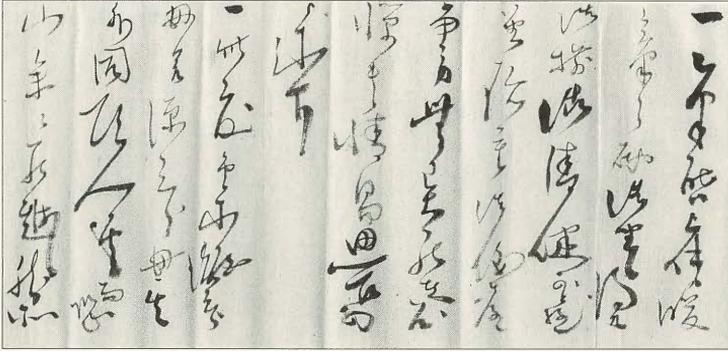
同意御礼奉申上候右御礼  
申上度此如二御座候猶期  
後喜候 恐惶謹言

四月五日 松井藤左衛門

滝屋善五郎様

解説 300 — 11 恐山参詣

等々の連絡



表書き

戊四月九日返事済  
山一

一筆啓上仕候暖

氣之砌御座候得共

御揃御清健可被遊

御座珍重御儀奉存候

当方無異罷有候乍

憚貴情易思召可

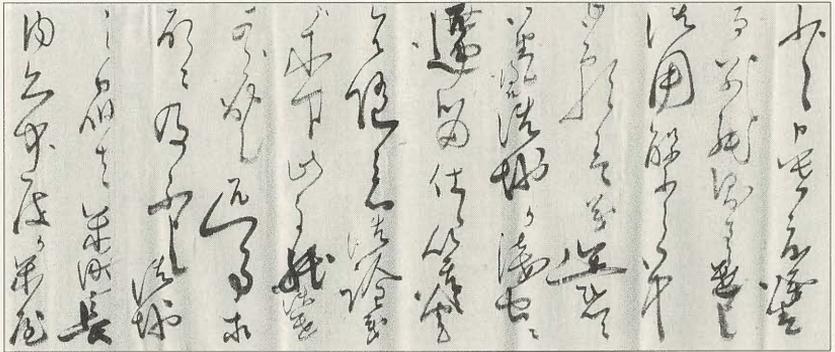
被成下候

一此度金木屋次三郎

母并源三郎母其

外同道人御座候而恐

山参ニ罷越候然所



少々申遣度義御座候

而別紙則差遣申候

御用繁之御中

御願申上候義迷惑二

御座候得共御地力浅虫二

逗留仕候筈二御座候

乍隨意御詮議

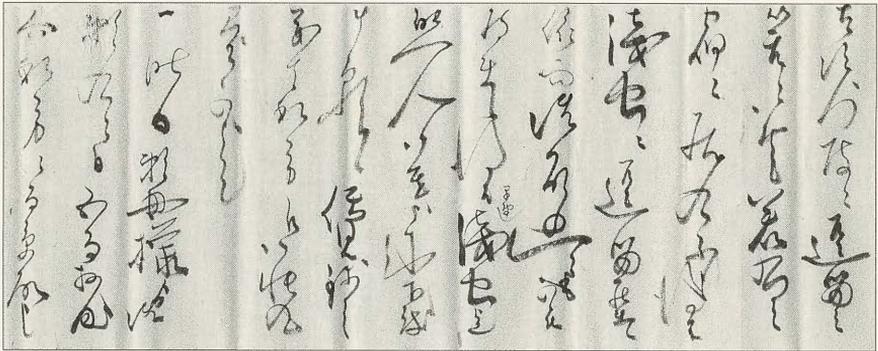
被成下候此手紙御遣

可被成下候返事等

取二及不申候御地

之宿者米町長

内久介殿か米屋



太次右衛門殿ニ逗留之

筈ニ御座候若右之

宿ニ居合不申候得者

浅虫ニ逗留罷在候

依而御取込にも可仕

存候得共早速浅虫迄

態人御遣被成下度

奉願上候賃錢之

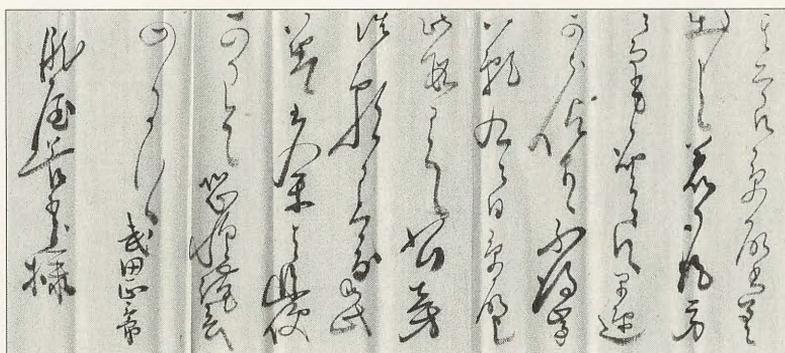
義者私方江御帳合

間々可被下候

一昨日頼母様方御

頼合ニ付五百拾匁

向頼方ニ受取申候



其節受取書差

出申候御願方

二而も御座候ハ、早速

可被仰下候不得止事

御頼合ニ付受取申候

此段申上候右旁

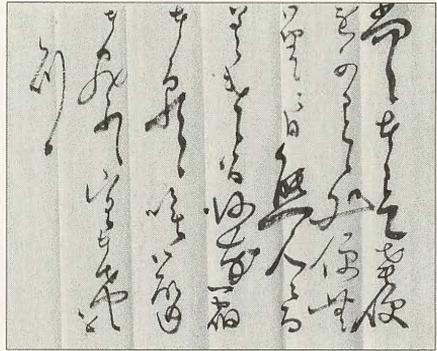
御願申上度如此

御座候書余者追便

可申上候 恐惶謹言

四月八日 武田正三郎

瀧屋善五郎様



尚々奉申上候幸便

を可申上候処便無

御座候 二付態人 二而

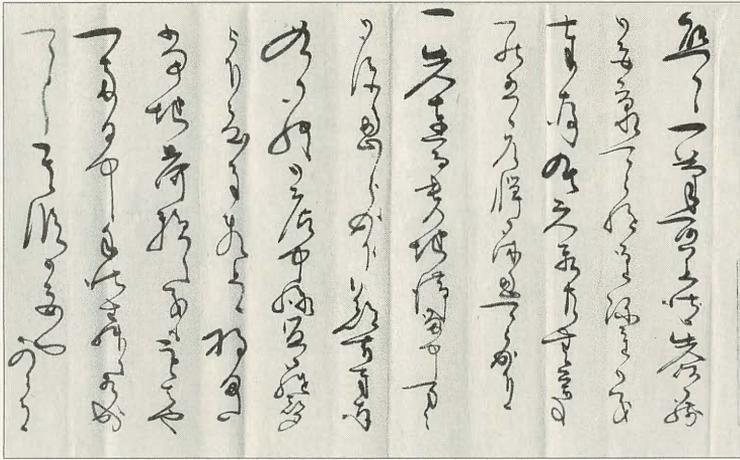
差遣候間何卒一宿

奉願候無御取込

奉察候宜奉希候 以上

則日

解説 300 | 16 残金支払の通知



表書き

四月九日達

橘屋徳蔵殿より

態々一筆啓上仕候先以御揃

御安康可被遊御座候珍重御義

奉存候此元私共無異事

罷有候乍憚御休慮可被成下候

一先達 而貴地滞留中万々

御添慮被成下難有奉存候

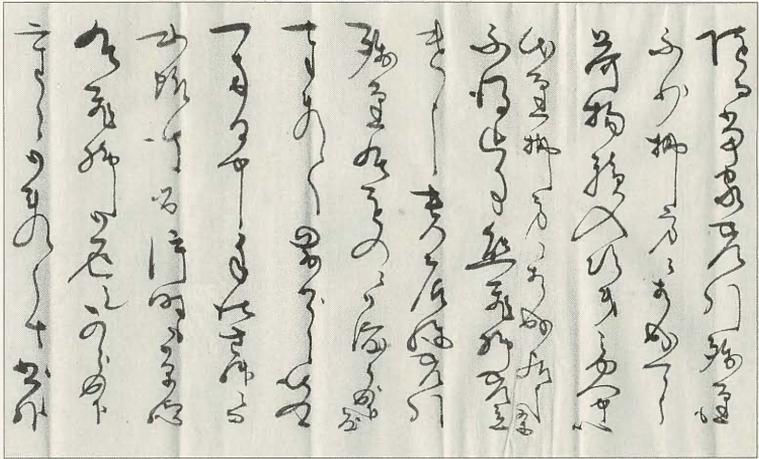
右御礼御店中様宜御継声

被成下度奉願上候猶また

当地荷積之義ももはや

一兩日中手仕舞ニ相成

可申候其段御安心可被下候



隨而当家差引殘金も

不殘拂方ニ相成可申候

荷物積入次第之商人中へ

代金拂方ニ相成居申候条

不得止事態飛脚差立

遣申候貴店様差引

殘金此ものニ御渡被成下度

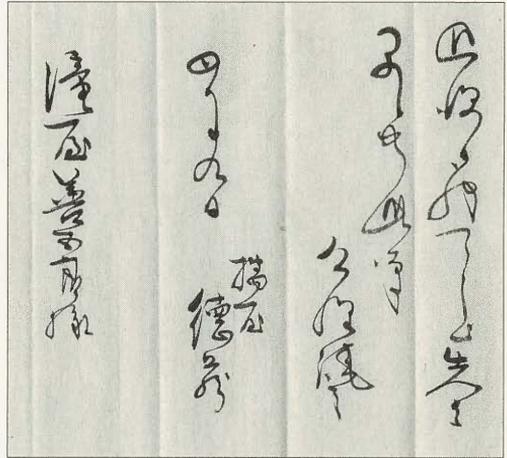
奉願上候若右之仕合

一兩日中手仕舞二面

出帆仕候間片時も御早様

此飛脚御返し可被成下

重々御頼申上候書外



近便御礼可申上候先者

早々□□まで

恐惶謹言

四月九日

橘屋 徳蔵

滝屋善五郎様

近便御礼可申上候先者

早々□□まで

恐惶謹言

四月九日 橘屋

徳蔵

滝屋善五郎様

0 2 5 . 8

## 解題書目 第40集

青森県立図書館編

青森 青森県立図書館 2012(平成24).3

72p 21cm

内容：滝屋文書 続4

---

平成24年3月15日 印刷

平成24年3月16日 発行

編集・発行

青森県立図書館

青森市荒川字藤戸119-7

Tel 017-739-4211(代)

Fax 017-739-8353

印刷

株式会社 誠工社

青森市第二間屋町三丁目3-18

Tel 017-729-1611

Fax 017-729-1188

---

# 「青森県立図書館解題書目」刊行一覧

(第22集までは品切れです)

第1集	津 軽 史	昭和46年10月21日	発行
第2集	官省指令留・官省願伺届	昭和47年3月10日	発行
第3集	滝 屋 文 書	昭和48年3月10日	発行
第4集	木 村 文 書	昭和48年11月25日	発行
第5集	多 門 院 文 書	昭和50年2月1日	発行
第6集	五 家 文 書	昭和51年3月31日	発行
第7集	萬 日 記 抄 一	昭和52年3月25日	発行
第8集	萬 日 記 抄 二	昭和52年7月28日	発行
第9集	萬 日 記 抄 三	昭和53年3月25日	発行
第10集	津軽史解説目次抄一	昭和54年6月25日	発行
第11集	津軽史解説目次抄二	昭和56年3月5日	発行
第12集	津軽史解説目次抄三	昭和57年3月15日	発行
第13集	津軽史解説目次抄四	昭和58年3月15日	発行
第14集	津軽史解説目次抄五	昭和59年3月25日	発行
第15集	萬 日 記 抄 四	昭和60年6月24日	発行
第16集	萬 日 記 抄 五	昭和61年6月26日	発行
第17集	萬 日 記 抄 六	昭和62年6月20日	発行
第18集	大 津 屋 文 書 一	平成元年1月31日	発行
第19集	大 津 屋 文 書 二	平成元年12月15日	発行
第20集	松 井 四 郎 兵 衛 留 書 一	平成3年1月18日	発行
第21集	伊 紀 農 松 原 一	平成4年3月31日	発行
第22集	伊 紀 農 松 原 二	平成4年10月30日	発行
第23集	与 之 遠 美 叢 遺 一	平成7年3月31日	発行
第24集	与 之 遠 美 叢 遺 二	平成8年1月31日	発行
第25集	与 之 遠 美 叢 遺 三	平成8年11月15日	発行
第26集	与 之 遠 美 叢 遺 四	平成9年9月10日	発行
第27集	与 之 遠 美 叢 遺 五	平成10年9月3日	発行
第28集	本藩明實録・本藩事實集一	平成11年10月1日	発行
第29集	本藩明實録・本藩事實集二	平成12年9月1日	発行
第30集	本藩明實録・本藩事實集三	平成13年9月4日	発行
第31集	本藩明實録・本藩事實集四	平成15年1月10日	発行
第32集	本藩明實録・本藩事實集五	平成15年10月30日	発行
第33集	工 藤 家 文 書	平成17年3月24日	発行
第34集	津 軽 史	平成18年3月28日	発行
第35集	津 軽 史	平成18年12月12日	発行
第36集	滝屋文書津出関係ほか	平成20年3月19日	発行
第37集	滝 屋 文 書 続 一	平成21年3月19日	発行
第38集	滝 屋 文 書 続 二	平成22年3月19日	発行
第39集	滝 屋 文 書 続 三	平成23年3月18日	発行
第40集	滝 屋 文 書 続 四	平成24年3月16日	発行





